

第二編

歷

史

第一章から第四章まで増補改訂版参照

第五章 現代における久万町の歩み

一から六まで増補改訂版参照

七 平成年代のあゆみ

平成時代の始まり

昭和六四年一月七日、昭和天皇が崩御され、ただちに皇太子殿下が踐祚されて平成の代が始まった。

昭和の六四年間は、まさに激動の時代であった。だが、平成に移っても世相の変化はますます加速され、とどまるところを知らない有り様である。

久万町では、六期二四年にわたる河野修町長の町政が仕上げの段階にかかった時期である。昭和五〇年四月初当選した河野町長は、平成一年四月に離任するまでの二四年間、「生きがいとうるおいのある町づくり」「自然と共生する高原文化のまちづくり」を目標にして、農林業の振興と町民のための生活環境の整備に心血を注いだ。

木造の美術館建築やふるさとの森事業などユニークな施策で、日本全国に「久万町」の名をとどろかせた功績は大であるが、世界情勢の急激な動きの中で、その願いを十分達成出来ず残念な思いをしたことも多くあったであろう。

平成一一年四月に就任した玉水寿清町長は、大筋で河野町政を継承し

ながら久万町政の安定化を図り、平成一六年八月一日の久万高原町発足が円滑に実現できるよう尽力している。

久万町の主産業である農林業の変遷と町づくりの様子をベースに、平成時代の久万町の歩みをたどってみたい。

なお、詳細については、それぞれの項目の中に記載されるので、参照してほしい。

平成元年（一九八九年）

三月、久万美術館開館。

日本で初めてと言われた木造の美術館で、昭和六二年に着工し、六三年に落成した。木材の町久万町にふさわしい、優れた美の殿堂である。

（町誌増補改訂版八七八頁参照）

昭和六三年に落成した畑野川小学校校舎に続く、大型の木造建築である。コンクリート造りや輸入木材の建造物に押されて、国産材の木造建築が少なくなっているなかで、地産地消による久万林業振興策の一つでもある。

これに続いて、物産館みどり（平成二年オープン）、直瀬小学校（平成三年落成）、天体観測館（平成四年オープン）、久万高原駅やまなみ（平成六年）、明神小学校（平成七年）、町立図書館（平成九年）、落合ふれあい館（平成一〇年）、久万中学校（平成一一年）、ホテル交流館（平成一四年）、父二峰小学校（平成一四年）等々、久万山産木材を使った建造物の建築を進めて、林業の活性化を図った。

学校の建築には、地元の篤林家から巨大な柱材など多くの木材が寄進されて、すばらしい校舎が出来た。畑野川小学校には、全国各地から連

日の参観者が訪れた。直瀬小学校では、県へき地教育研究大会（平成四年）、全国へき地教育研究大会分科会会場（平成八年）となるなど、久万町の木造校舎は全国に名をとどろかせた。

木造建築の良さが見直され、次第に木造建築が増えてきて、木造の校舎建築に対する国の補助金も単価が見直され、実際の建築費に近い金額に対する補助金が支給されるようになった。

しかし、都市部での都市再開発で巨大ビルが林立し、その高さを競っている現状では、残念ながら木材需要の伸びは小さい。

この年、四月から消費税が実施され、国民の消費生活に引き締め気運が生まれ始めた。参議院選挙で自民党惨敗（七月）、横浜の弁護士一家行方不明事件（十一月）、総評が解散し新「連合」と全労連が発足（一月）など国内の動きがあった。歌手、美空ひばり永眠（六月）。

国外では、天安門事件（六月）、ベルリンの壁撤去（十一月）、ブッシュ・ゴルバチョフ会談で冷戦終結を記念（十二月）などの動きがあった。県内では、玉ぐし料訴訟で違憲判決が出た。この裁判は、平成四年高裁が合憲の判決を出した。そして、平成九年に最高裁が違憲の判決を出した。以後、知事は私人で出席することになった。

平成二年（一九九〇年）

四月、久万町生産物直売所（物産館みどり）オープン。

町の特産物など町民が生産したものを直接消費者に届けることで、生産者と消費者をつなぎ、町民の生産意欲を高め、消費生活を豊かにする場ができた。これによって、生活改善グループの活動がいつそう盛んになった。また、これを機に地域産物開発研究グループを募集したところ

一五グループの応募があった。その後も幾つかのグループが誕生し、久万町農村生活研究グループ連絡研究会を結成して、共に支えあいながら、日曜日などの活動をそれぞれの地域で続けている。

八月、株式会社いぶき設立。

ふるさと創生事業費一億円などを投入し第三セクターの株式会社を設立した。深刻化する林業の担い手不足と高齢化問題を解決することをねらいとしたものである。

代表取締役は久万町長が兼務している。

若者たちが誇りを持つて農林業で安心して働ける職場環境をつくるため、サラリーマンなみの福利厚生と通年雇用体制を確立している。

中予山岳流域林業活性化センター設置（平成三年）、久万広域森林組合発足（平成一〇年）、同組合大規模加工施設起工（平成二年）、そして、林道サルロ菜畑線（平成元年起工）、広域基幹林道上林河之内線（平成五年起工）をはじめ各地の林道整備に努めるなど、林業活性化政策を進めて来た。

また、全国森林サミット開催（平成四年）、みどりは友だち木のノート発行（平成五年）、まんまる木星探険隊交流事業開始（平成六年）、緑の少年隊活動、少年の森体験学習など林業への関心と意欲を高める教育



愛媛県林業試験場

活動にも力を注いだ。

日曜林業教室（昭和五九年開始）による実技指導も続けられた。

一月、愛媛県林業試験場落成。

皆生に立派な県の施設ができた。久万林業の大きな支援になる施設である。

一月、久万凶荒予備組合一〇〇周年記念シンポジウム。

四月には、一〇〇周年記念植樹を実施した。この組合の歴史等については、同組合発行の「久万凶荒予備組合一〇〇年史（平成六年発行）」に詳しく記されている。久万山の農民の生活を支えてきた、長い歴史をもつ組合であるが、四町村の合併に合わせて解散し、所有財産は新町に引継ぐことになった。久万山の歴史は大きく変わろうとしている。

この年から、日本経済のバブルが崩壊、株価の暴落、地価の下落が始まった。衆議院選挙（二月）で自民党が安定多数を獲得したが、世相は不安定な方向に向かっていった。

ソ連で大統領制導入（三月）、イラクがクウェートに侵攻（八月）、日本人一四三人が「人間の盾」にされ、約三カ月半人質生活を送る事態になった。ドイツ統一（一〇月）、英のサッチャー首相辞任（一月）など世界は大きく動いた。

県内では多々羅大橋着工（八月）、県知事選挙（十二月）などがあつた。

平成三年（一九九一年）

二月、電話番号変更。局番が変わり、市内局番が二けたになった。

三月、久万高原ラグビー場落成。夏が涼しい久万は、夏期の合宿訓練

に適しており、以前から自衛隊ラグビー部などが久万中の運動場を利用して、学校や町民館を宿所に使っていた。町内に宿泊施設が出来て、専用のグラウンドがあればという声に応じたものである。平成六年には、第一回久万町長杯ラグビーフットボール大会が開かれ、その後毎年開催されている。

スポーツマンであった河野町長は、町民の健康増進のため、スポーツ施設の充実にも努め、各種スポーツの大会を開いてスポーツ振興を図った。

下直瀬多目的集会施設（平成三年）、屋内ゲートボール場すばく久万（平成五年）、国民宿舍テニス場（平成六年）、落合ふれあい館（平成一〇年）といった施設が出来、老いも若きもスポーツに親しむ場と機会が増えた。

青年女子バレーボールチーム、県青年大会優勝・全国青年大会出場（平成二年）、青年男子軟式野球チーム、県青年大会優勝・全国青年大会四位（平成七年）をはじめ、卓球、ホッケー、ソフトテニス、スキー、ラグビー、ソフトボール、なぎなた、剣道、バドミントンなど多くの種目のスポーツで、団体で、個人またはチームの一員として活躍し好成績を残している。最近では、渡部耕大君がFISスノーボードジャパンカップ二位、FIS第一〇回全日本スノーボード選手権大会二位など目覚ましい成績を上げている。

五月、愛媛県植樹祭。「そだてよう愛媛の大地に豊かな緑」をスローガンに、久万高原ラグビー場で開催された。あいにくの雨だったが、町内外から一三小中学校の緑の少年隊と林業関係者約四五〇人が参加した。

直瀬緑の少年隊の活動報告やケヤキの植樹などを行った。

七月、商業近代化事業店舗（ふれあいロードa）落成。Aコープ久万店の新築移転に合わせ、併設してショッピングモールを建設、町内の商店が入った。商業の活性化と近代化を目指した、新しい形の商店街である。一部入れ替わりがあったが、現在も共存共栄の経営をしている。

この年、県内では台風一九号により五〇〇億円を超す大被害を受けた（九月）。全国でも農作物に大きな被害があった。新松山空港がオープンし（一二月）、松山自動車道が西条まで開通した（三月）。

国内では、雲仙・普賢岳の噴火があり、火砕流により多数の死者、行方不明者が出た（六月）。ソ連大統領の初来日（四月）、宮沢内閣発足（一二月）、証券不祥事などがあった。また、ダイヤルQ2が社会問題となった。

海外では、湾岸戦争（一月）、ソ連邦の解体（一二月）、ユーゴの民族紛争、フィリピンで火山噴火など目まぐるしい一年であった。

平成四年（一九九二年）

九月、久万町商工会と松山大学村上ゼミとの合同研修会。前年、結成三〇周年を迎えた久万町商工会は、平成三年度国の補助を受けて街おこし推進事業を実施した。その一環として松山大学村上ゼミの学生による商店主の経営に対する意識調査を行った。

その調査結果の分析に基づく合同研修会である。学生から商店街の活気のなさに失望したとか、もつとテレビなどを使ってPRをすべきだといった率直な意見が出た。

広報くままちに商工会情報を連載して、活動状況やイベントの紹介な

ど、町民向けのPRはしているが、町外へのPRも積極的にしていくことが課題であろう。

平成三年に開店したAコープ久万店をはじめ、次々に進出して来た大型チェーン店等に顧客を奪われないような対策が望まれる。

九月、久万高原の味と香りフェア。二六・二七日の二日間、フジグラ松山の一階ロビー全面を借りて実施。町内一二団体が参加し、高原野菜、手作り菓子、りんご、茶、ささゆりの香水等の特産品を販売し、久万高原の秋の味と香りをいっぱい届けた。また、木彫、家具等の展示即売も行った。

イベント会場では、久万山五神太鼓、三坂馬子唄と踊り、餅つき、久万高原のクイズなどの催しで大賑わいであった。売り上げも上々で、こんなに売れたのは初めてという団体も幾つかあった。

九月、ふもと友愛館（直瀬高齢者若者センター）落成。高齢者若者活性化農業構造改善事業で、古くから永子地区に湧出していた冷泉を活用し、浴室付きの集会施設を建造した。泉質が良く、設備も整っていて、宿泊も出来、利用者に好評である。

この年、県内では、瀬戸内海にサメが出没し人を襲う事件（三月）があった。

国内では、佐川急便事件（八月）で政界に激震が走り、政治不信が増大した。PKO協力が成立し、自衛隊をカンボジアに派遣（九月）。金融機関の不良債権問題、エイズ感染者の急増などがあった。

海外では、アメリカ大統領にクリントン氏が当選（一二月）。米口首脳会談（一二月）で大幅核削減に合意。環境問題で地球サミット（六月）、

ユーゴの内戦泥沼化など、やはり多難の年であった。

平成五年（一九九三年）

五月、久万町みどりのふるさと環境を守る審議会。町では、前年二月みどりのふるさと環境条例を制定した。この条例に基づいて景観モデル地区を指定するなど、みどり豊かな自然や歴史的、文化的遺産を後世に継承しようというねらいである。そのための第一回審議会を開催、条例等の説明と今後の計画などの審議をした。

九月に第二回審議会、一二月には、「みどりのふるさと環境フォーラム」を開催している。

九月、ふるさと森事業一〇周年記念行事。九月から一〇月にかけて三回にわたり「会員の集い」を開催、会員と家族一五三人の参加があった。この事業は、町有林を活用し都市と山村の交流を通して、林業の活性化を図るというユニークな試みであった。毎年盆暮れにはふるさと小包を届けるなどの交流活動で会員に喜ばれてきた。しかし、長期にわたる不況と林業不振のため継続が困難になった。この事業を合併後の新町に引継ぐことは問題を残すと考えた町当局は、平成一五年、会員と協議を重ね、理解を得て契約を解除した。

九月、ささゆり通信（オフトーク）開局。電話回線を利用して緊急情報や町からの伝達を行うことになった。しかし、町村合併後町内同一の方式にするため、平成一六年三月末で閉局した。

この年は、冷夏・長雨の上に台風が多い異常気象の年であった。大凶作でコメを大量に輸入した。自民党一党支配が崩れ、細川連立政権が誕生した（八月）。細川内閣は、コメ市場の部分開放受諾を決めた。ゼネ

コン汚職、不況深刻化、雇用不安、北海道南西沖地震（七月）等々、暗いニュースが続く中で、Jリーグのスタート（五月）、皇太子殿下のご結婚（六月）が明るい話題であった。

平成六年（一九九四年）

二月、久万商店街街路灯完成。くまタウン協同組合（平成五年結成）で商店街に街路灯を設置した。町の景観を良くし、買い物客や通行人の安全を図り、合わせて商店街の活性化を目指したものである。

四月、久万簡易水道高山浄水場落成。唐子水源池の老朽化や途中の配水管の漏水・破損による断水等の度重なる故障対策のため、新しく設置した。水源は皿木川の高山地区、浄水場も高山地区に設置した。最新の設備を備えている。これで、久万地区の断水がほとんどなくなった。

父野川簡易水道（平成三年落成）、中村簡易水道（平成六年落成）、二名簡易水道（平成八年落成）、畑野川簡易水道（平成一一年落成）、露峰簡易水道（平成一二年落成）、直瀬簡易水道（平成一五年落成）と町内



久万商店街街路灯

全域の水道施設が改善され、衛生的な生活をするようになった。

四月、JR四国久万高原駅（産地形成促進施設）落成。愛称は「やまなみ」。自然と共生する高原

文化のまちづくりのシンボル施設として建築した木造建築である。一階は待合室と売店、二階のホールは各種のイベントに利用できる、久万の情報発進の場である。売店は久万町商工協同組合に委託して、久万の特産物などを販売している。

自家用車の普及で公共の交通機関を利用する人が減少し、平成一五年からJRバス急行便が廃止された。また、伊予鉄バスも路線や便数が減って、過疎地はしだいに不便になっている。

八月、農業集落排水事業畑野川終末処理場起工式。上水道改善とともに、下水関係の処理施設の整備も並行して進められ、環境保全、生活の合理化が図られた。畑野川、二名、父野川、露峰、直瀬、下直瀬は農業集落排水事業で、久万町地区は都市下水道と、各種補助事業を取り入れられている。明神地区など現在残っている地域は、合併浄化槽方式で順次工事が進められている。これらの工事のなかで、業者との癒着という汚点を残したことは残念である。今後の戒めになりたい。

この年、県内では、異常洪水で松山市は四か月も時間断水という大変な状況だった。大江健三郎さんにノーベル文学賞（一〇月）、道後温泉本館重要文化財（一二月）に、松山自動車道川内まで開通（一二月）、



排水終末処理場

松山—ソウル定期航空便の開設決定（四月）と明るいニュースが多い年でもあった。

国内では、非自民政権が崩壊、自民・社会・さきがけで村山内閣が誕生した（六月）。名古屋で中華航空機が墜落炎上、二六四人が死亡という惨事があった（四月）。松本サリン事件があった（六月）。価格破壊、産業空洞化が広まった。

海外では、北朝鮮の金日成首席死去（七月）、権力の座は息子の金正日氏に移った。ルワンダ内戦、ボスニア内戦が続くなかで、中東和平が進みラビン首相、ペレス外相、アラファト議長 of 当事者三人にノーベル平和賞が贈られた（一〇月）。欧州連合（EU）が発足した（一二月）。平成七年（一九九五年）

二月、壮年会二〇周年記念式典。婦人会、青年団は長い歴史を持つ団体であるが、町の屋台骨である壮年層がばらばらであっては町づくりは難しい。壮年層が互いに研修し、情報交換をし、協力して住み良い町を作ろうと壮年会が結成されて二〇年になった。

上浮穴産業文化会館で開催され、各分会の代表が日頃の実践や将来の夢を発表した。

三月、畑野川地域食材供給施設（さくらぎ）落成。上畑野川農産加工組合三グループは、特産物加工や都市農村交流活動に積極的に取り組み幅広い活動を展開してきた。その活動の拠点、地域振興、グリーンツーリズムの拠点が是非欲しいと、組合員の出資と補助事業の利用により建設された。

契約農園の会場として、また、食品加工の調理場として利用されている。

る。ここで作られる焼まんじゅう、かきもちなどは消費者に評判がよく生産が間に合わないほどの人気商品である。

一月、バステルファームナオセ落成。若者に魅力のある農業経営を起こし、農業の担い手を育成しようという目的で、若手リーダー三人が中心になって農業経営体をつくった。最新の施設と技術を導入して、シクラメンを主とした鉢花の生産に取り組んでいる。一年中、色々な美しい花が育っている。

地域農業の構造改善、活力ある農村社会の形成に貢献するものとの期待を担った組織・施設であるが、諸般の事情で経営の苦労は大きいようである。難題を克服して発展して欲しいものである。

この年、県内では、豪雨で肱川が氾濫（七月）し、家屋や田畑に大きな被害が出た。円の急騰でタオル、造船業界などに危機感、県が緊急対策を立てた。ジャスコ、ベスト電器など大型店進出で流通業界の再編が始まった。

国内では、阪神・淡路大震災が発生（一月）。震度七の激震で六、〇〇〇人を超す死者が出た。救援のボランティアが全国から駆けつけた。久万町からも救援物資を送ったり、理容業の人たちが散髪奉仕に行ったり、みんなが自分にできる援助や参加をした。地下鉄サリン事件（三月）、警察庁長官銃撃事件（三月）など物騒な事件が続いた。

海外でも、フランスの核実験強行（九月）、イスラエルのラビン首相暗殺（十一月）、韓国の盧泰愚前大統領逮捕（十一月）、全斗煥元大統領逮捕（十二月）、ソウル市の百貨店崩壊で死者五〇一人など物騒な年であった。

平成八年（一九九六年）

四月、にこここ館オープン。久万保育園に併設の児童館がオープンした。民間の児童館は愛媛県では初めてのものである。放課後の児童対策事業、育児相談などを実施し、女性の就労に伴う諸問題や少子化で遊び相手が近くにいない子供の問題などに対応できる施設の誕生である。

四月、ふるさと旅行村に電気自動車登場。「くまっこ」と名付けられた。二人乗りで一周一・五キロのコースを約二〇分で回る。次第に減少している入村者数の回復を期待して取り入れた。当初はもの珍しさもあって利用者に喜ばれたが、残念ながら一時的ブームに終わった。

平成九年、ふるさと村は二〇周年を迎え、記念式典を行った。平成一五年から、村のひなまつりと銘打って、家庭で眠っている古い雛人形を譲り受け、民家いっばいに飾ったり、古い民家に宿泊ができるようになり、ユニークな試みで営業成績を伸ばす努力をしている。

八月、久万高原香り工房結成。町内に咲くホウの花、ササユリの花から香りを抽出して商品化し、販売しているグループ。平成六年、久万町観光協会の中に香研究会が生まれ、久万の香りをもつ特産物の開発を目指した研究や木の香生活展などの事業、そして、先進地視察による学習



にこここ館



香り工房

を積み上げてきた。一応の成果をみたが、協会で計画した研究会の期間が終了した。それを機に、せっかくの研究成果を生かして町づくりに貢献

できればと、有志七人が出資して立ち上げた。代表者村上千代子氏を中心に、商品開発に努めている。久万の山に自生しているモクレン科のホウの木の実つ白な花からエッセンスを抽出し、線香、インセンス木の香り（お香）、アロマオイル、ササユリの花から抽出したエッセンスのササユリコロンなどを商品化している。

平成九年には、国道三三三号線沿いにログハウスの店舗を開いた。小さなかわいい店だが、会員手づくりの品や久万山ならではの品も並ぶセンスある店である。

なお、香研究会発足に先立って、物産館みどりでささゆりの香水を開発し販売していた。

また、町内には、井村工房、甲斐工房などがあり、それぞれにユニークな商品を作っている。

一〇月、全国へき地教育研究大会・分科会。直瀬小学校を会場として開催された。直瀬小学校は、平成四年に県へき地教育研究大会の会場校として、充実した教育活動と木造校舎を公開した。その成果が高く評価

されて、全国大会の会場校に選ばれた。

この年、県内では、面河村議会のリコール運動で自主解散（八月）、松山商業が夏の甲子園大会で優勝（八月）などの出来事があった。

国内では、前厚生事務次官の逮捕など官僚の事件や不祥事が多くあった。また、薬害エイズをめぐる官学業界の癒着も表面化した。病原性大腸菌O157による食中毒で九、〇〇〇人を超す患者が出た。

海外では、ペルーの日本大使公邸が占拠される事件、フランスと中国の地下核実験、イギリスで狂牛病が猛威を振るうなどの事件があった。

平成九年（一九九七年）

七月、新久万町立図書館開館。蔵をイメージした木造の図書館である。閲覧室の大きな丸太の柱が、久万の図書館名物である。町有林から切り出した樹齢九〇年の杉である。蔵書も林業関係の図書に重点を置いた収集をしている。ゆったりとした広さがあり、開架式書架で、本を手にしやすい。木造の良さと落ち着いた雰囲気読書を楽しむことができる。

児童図書の充実にも努め、毎月定例のおはなし会で絵本の読み聞かせや紙芝居などを行っている。成人向けには、広報くままちに図書館だよりを継続して掲載している。また、移動図書館による貸し出し、古典学習会など多彩な催しをしている。

七月、全国生涯学習まちづくり研究大会（西日本研究大会）。生涯学習を盛んにし、住民の手で活気のあるまちづくりをすすめるよとの趣旨で開催された。関西、中国、九州の各地から大勢の参加があり、すばらしい取り組みの報告や提言があった。

この年、県内では、福田和子容疑者が時効寸前に逮捕された（七月）。

伊方原発事故（六月、九月）、新居浜太鼓台鉢合わせで死傷者（一〇月）、県職員汚職（二月）などの暗いニュースの中で、河野兵市さんが単独徒歩で北極点に到達という日本人初の快挙を成し遂げた（五月）。

国内では、連続児童殺傷事件で中三生が逮捕され（五月）、少年法についての論議が盛んになり、法改正の動きになった。消費税が五割にアップ（四月）、財布のひもが固くなった。都銀や証券会社など大手金融機関の破綻、株価の下落などで、二兆円の減税も追いつかず景気減速が続いた。

海外では、ペルーの人質事件が、一二七日に犯人全員射殺の武力解決をした（四月）。香港がイギリスから中国に返還され一國二制度になった（七月）。エジプトで無差別銃弾テロ（十一月）があり、日本人一人を含む観光客が犠牲になった。

平成一〇年（一九九八年）

七月、老人保健施設「あけぼの」オープン。介護を必要とする高齢者の増大に対応して、自立支援、家庭復帰のためのリハビリテーション、看護・介護サービス及び日常サービスを提供し、医療・福祉・保健の連携強化を推進する施設である。ささゆり荘、久万の里（平成三年落成）で対応しきれない病弱高齢者へのサービスをすることができるようになった。

民営の老人介護施設、グループホーム（現在五施設）が出来、久万の里が増床（平成一六年）されて、入所待ちの数が少なくなっている。

精神障害のある人のための施設、あつぷるハウス久万（平成九年開所）やグループホームも出来た。平成一六年には、パステルくらぶが運営す

る心身障害者共同作業所、パステル工房が開所した。パステルくらぶは、NPO法人として認可される予定である。

車椅子用トイレの設置、交差点の信号の改善、道路や建物の段差解消など障害のある人に配慮した政策が実施されてきている。

この年、県内では、アサヒビール四国工場操業開始（六月）、県美術館開館（十一月）、えひめこどもの城オープン（一〇月）、正月投票という異例の知事選などがあつた。

国内では、長野オリンピック（二月）、サッカーW杯に日本初出場（七月）といった明るいニュースもあったが、和歌山毒物カレー事件（七月）、長銀、日債銀が破綻し国有化、そして不況がますます進行と、暗いことの方が多かった。

海外でも暗いニュースが多く、地震、洪水などの自然災害が世界各地で起こつた。インドネシアでスハルト体制が崩壊（五月）、クリントン米大統領の不倫もみ消し疑惑などということもあった。

平成一一年（一九九九年）

四月、統合久万中学校開校。その前日までに、直瀬中学校、畑野川中学校、父二峰中学校、久万中学校の四校が閉校式を行い、それぞれに伝統のある学校の歴史を閉じた。昭和二二年、六三制の新制中学校として開校以来、五二年間の歴史に幕を降ろした。各校の活躍については、それぞれの閉校記念誌に記されている。

過疎化、高齢化、少子化が進み、止むを得ない選択ではあるが、残念なことである。平成二年には久万小学校横谷分校が閉校になっており、平成一六年三月には、二名小学校と父二峰小学校が統合して一つになり

父二峰小学校になった。二名小学校では、山村留学生を受け入れ、その成果を上げるなどの努力を続けてきたが、やはり、その地に生活基盤を置く人が減ってきては、致し方ないことであろう。

ちなみに、平成元年三月末の久万町の人口は八、三一八人、平成一五年三月末には七、四〇三人で、九一五人・約一一割の減少である。これに比べて、小学校の児童数は、平成元年四月が五二二人、平成一五年四月三七七人、一三五人・約二六割の減少である。少子化率が二倍を超える勢いで進んでいる。

四月、河野修町長離任、玉水寿清町長就任。

河野町長退任のあいさつから（広報くままち四三六号）

二一世紀は人間と自然が共生する時代であり、また農山村の時代であるとも言われています。

自然と人間の豊かなふれあいを保ちつつ、これを美しく健全な状態で将来の世代に引き継いでいく責務があると考えています。

高原の自然を活かし、乳幼児から高齢者まで安心して暮らせる潤いと安らぎのある町、これが私の夢であり変わらぬビジョンでありました。

今、中山間地域に求められるものは、自然と人間が豊かなふれあいを保ちつつ食糧を供給し、国土を保全しながら若者が定住して山村が甦ることです。

玉水町長就任のあいさつから（広報くままち四三六号）

これまで河野町長が立派に築かれた個性的で特色のあるまちづくりの成果を停滞させることのないよう全力を尽くして参りたいと思います。

私も、河野町政の路線を継承して、地域資源と人を生かして、人にや

さしい、自然にやさしい「自然と共生する高原文化のまちづくり」を目指します。

町民ごぞつての参加と協力をいただき、どこにも負けない明るく住みよい活力に満ちたまちづくりを努めたいと思います。

久万町で整備してきたハード事業、諸施設等の有効な利活用を図るために、ソフト面の創意工夫、見直しや改善に町民のご協力もいただいで積極的に取り組みたいと思います。

町政は継続性が必要です。今後取り組むべき課題も山積みしておりますが福祉の充実、農林業並びに商工業の振興、生活環境の整備、担い手育成と若者定住、教育の推進等に努めて参ります。

五月、農業公園開園。農業従事者の高齢化率が五〇割を超え、少子化

や若者の都市部への流出で農業の担い手不足は深刻な問題であり、今後の農地保全や農業生産が心配である。そこで、イターン、Uターンなど町内外を問わず、農業を志す人を募集し、研修を助成して担い手の育成をする施設を開いた。農業担い手育成農場、ふれあい広場施設、滞在型市民農園施設を持つ、近代的な農業公園である。研修期間は二年で、現在では、研修を終えて久万町で農地を求



農業公園

め、農業を営んでいる方が数名ある。

七月、田舎いっばい体験 in くま事業実施。文部省の「子ども長期自然体験村」と農林水産省の「グリーン・ツーリズムと心の教育連携モデル事業」の協同指定を受けて実施した。県内外から小中学生四〇人が参加し、ふるさと旅行村を中心に二週間滞在して、自然体験や農作業などの勤労体験をした。あいにく台風が連続してやってきて、予定のスケジュールがこなせなかったが、参加者はそれなりの貴重な体験をして帰って行った。

この年、県内では、瀬戸内しまなみ海道が開通し（五月）、観光ブームになった。県知事選（一月）で加戸守行氏、松山市長選（四月）で中村時広氏の両氏がともに初当選した。肱川で喜多川歌麿の版木が見つかり（三月）、全国の注目を集めることとなった。

国内では、自公連立内閣を再改造（一〇月）、経済再建を掲げて発足したが、企業のリストラで失業者が増加、中高年の自殺が急増した。大手銀行の破綻もあった。東海村での臨界事故（九月）、警察不祥事など事件事故も多かった。

海外では、ヨーロッパで単一通貨のユーロ誕生（二月）。NATOのユーゴ空爆（三月）、トルコ（八月）・台湾（九月）の大地震、コンピュータの二〇〇〇年問題、東ティモールの独立（九月）など様々なニュースがあった。

平成一二年（二〇〇〇年）

四月、三出会いウィーク体験事業開始。久万中学校二年生を対象に新しく実施することになった事業。連続する五日間、町内の職場や社会施

設で働くことで、自分の力を実感し、自分の役割や責任を自覚させる。仕事場で地域の大人に接して、家庭と学校を離れた社会で人との出会いを体験させる。働くことを通して、自分を見つめさせる。すなわち、新しい世界との出会い、他者との出会い、自分との出会いという三つの出会いをねらったものである。地域の理解と協力を得て、期待した成果を上げることができた。地域の人たちにも刺激になり、地域で子供を育てる気持ちを持ってもらえたようである。

四月、ごみの分別収集開始。容器包装リサイクル法の完全実施に伴って、久万町でも分別収集することになった。燃えるごみ、燃えないごみについては、従来どおり町が収集し、資源ごみ（紙類・缶類・びん類・ペットボトル）は上浮穴郡生活環境事務組合が収集することになった。

平成一五年四月からは、資源ごみとして分別収集するものに、紙パックと白色トレイが加わった。また、平成一三年四月から家電リサイクル法の実施でテレビ・洗濯機・冷蔵庫・エアコンのリサイクルが義務づけられ、平成一五年にはパソコンもリサイクルの中に加えられた。

九月、農業公社設立総会。先人たちが苦勞して切り開き、培ってきた久万の肥沃な農地を保全し、農業を維持発展させ、担い手を育成して、美しい久万町を未来に引継ぐための事業を行う社団法人として結成された。農地保有合理化事業、農作業の受委託、新規就農者及び農業生産法人の育成等々の事業を実施する。高齢化、過疎化にあえぐ農村の現状を救い、活性化する頼みの綱である。

この年、県内では、県警の不祥事が相次いだ。Xハイウェイが開通（三月）して、四国の四県都が三時間圏内になった。市町村の合併試案

が発表された(一〇月)。坊ちゃんスタジアムが完成した(七月)。

国内では、一七歳の少年の凶悪犯罪が続発、少年法が改正された。噴火・地震・大水害などが相次ぎ、三宅島住民の避難生活が長期化した。雪印乳業製品で食中毒発生(六月)、不衛生な製造工程が露呈した。旧石器時代の遺跡発掘で捏造が明らかになった(十一月)。シドニーオリンピックでマラソンの高橋尚子選手が金メダルに輝いた(九月)。この大会では、女子選手の活躍が目立った。介護保険制度はスターとした(四月)。

海外では、韓国と北朝鮮の首脳会談(六月)が分断五五年目に開かれた。アメリカ大統領にブッシュ氏(十二月)、ロシア大統領にプーチン氏(五月)が就任した。日本は不況だが、アメリカは景気拡大が続き史上最長の一〇年目に入った。

平成一三年(二〇〇一年)

二月、久万高原トマト部会三〇周年記念大会。昭和四四年の減反試行実施から稲作生産調整が始まった。稲作農家は、減反対策に頭を悩ました。種々検討し、転換作物の試作に取り組んだ。その中で、トマト栽培を始めた農家が昭和四六年にトマト部会を結成した。トマトの栽培農家一九八戸、栽培面積一、〇三二㌥、販売金額三、二〇〇万円余りの出発であった。農家数は増減があったが、栽培面積は漸増し、平成三年度には一〇億円を越す収穫があった。平成四年二月、一〇億円突破記念大会を盛大に開催した。

平成元年、井邦賞受賞。全国施設園芸共進会で全農会長賞受賞。平成一一年、全国農業コンクールで優秀賞受賞。輝かしい実績であるが、異

常気象や病虫害との戦いの中、露地栽培から雨除けハウス栽培へ、強力東光から米寿、サターンその他の品種を経て桃太郎へと品種開発、共同育苗ハウス、共同選果場など施設の建設・改善、そして市場の開拓と努力してきた。

三〇年を経た平成一二年度は、部会加入農家二二五戸、面積二、六五〇㌥、販売金額八億三、二五〇万円余であった。長引く不況の影響を受け、平成一五年は品薄なのに安値で苦しい年だった。携帯電話、インターネットの普及で情報交換が速やかになり、道路事情がよくなり保冷車が昼夜を問わず走るの、生産者価格が抑えられる状況のようである。

はじめの頃は、寝る間も無い忙しさで、上り框で地下足袋のまま仮寝したという話もあった。平成一二年度事業で高能率選果施設が完成し、作業効率がよくなり、作業の省力化が進んだ。

花卉、キャベツ、大根、ピーマンなどの転換作物も同様に辛苦と研さんを重ねて苦難を克服し、順調に伸びてきている。ピーマンは平成四年に三億円突破記念大会を開いている。

減反政策が厳しくなった平成一〇年頃だったか、当時の河野町長と雑談していて、減反で久万の農業も大変でしょうと言うと、「久万の農業は、基盤づくりがちゃんとしてきているから少々のことではへこたれん、心配いらんのよ」という返事が返ってきたことを思い出す。

三月、芸予地震発生。震度五、災害対策本部設置。久万も民家の屋根瓦が落ちたり、石垣が崩れたり、多くの被害が出た。

この年、県内では、えひめ丸がアメリカの原子力潜水艦に衝突され沈没する悲劇が起こった(二月)。芸予地震で大きな被害を被った(三月)。

河野兵市さんが北極圏で遭難死という無残な事故があった(五月)。

国内では、構造改革を旗印に小泉内閣が発足した(四月)。国内初の狂牛病感染牛が確認された(九月)。不況がますます深刻化、完全失業率五割台、大阪・池田小児童殺傷事件(六月)、外務省不祥事と相変わらず暗い世相である。イチロー選手がアメリカ大リーグで大活躍して、国民を喜ばせてくれた。

海外では、アメリカ同時多発テロで三、〇〇〇人を超す死者・不明者が出て、世界中が騒然となった(九月)。アメリカのアフガニスタン報復攻撃でタリバン崩壊。アメリカ各地で炭素菌テロなど報復合戦の様相となり、反米・反政府ゲリラが続くようになった。また、パレスチナ紛争も激化してきた。

平成一四年(二〇〇二年)

四月、久万町森林再生支援事業スタート。久万町の森林を再生することを目的とした事業。平成一四一六年度の三年間、計画的な間伐に対して補助金を交付する事業である。

一月、ごみ処理施設(改善工事)竣工。環境問題は世界的な問題である。ダイオキシンその他の公害を無くすために、次々と法改正が行われている。この年一二月から家庭用焼却炉や事業所の小型焼却炉が使えなくなることに対応して、高性能の焼却炉が設置された。

この年、県内では、砥部町で合併問題をめぐり、町長や議会のリコール問題が起きた。牛肉偽装事件が愛媛にも飛び火し、企業モラルの欠如を露呈した。四国初のプロ野球オールスター戦が坊ちゃん球場で開催された。

国内では、日朝首脳会談が行われ(九月)、北朝鮮が日本人拉致を認めて謝罪した。そして、五人の拉致被害者が帰国した。この問題については、日本と北朝鮮で認識の仕方が大きく違っている。平成一六年、再度小泉首相が訪朝し首脳会談を実施し、家族五人が首相といっしょに帰国した。しかし、まだ残された家族、拉致されたまま消息の分からない人があり、全面解決には至っていない。核全面廃止、国交正常化の問題と合わせて解決までは前途多難の様相である。

田中氏ら四人の国会議員が辞職、鈴木議員逮捕(六月)と国会は大混乱。牛肉偽装事件や相次ぐ倒産と世間も大混乱であった。

ノーベル賞初のダブル受賞、日韓共催のW杯で日本チームが決勝トナメントに進出(六月)というニュースで、救われた感じである。

海外では、国連が四年ぶりにイラクの大量兵器査察に入った。アメリカのブッシュ大統領は、イラク、イラン、北朝鮮の三国を悪の枢軸と非難した。

パレスチナ紛争、バリ島爆弾テロと、世界もまた大混乱である。

世界同時株安、IT不況が続くなか、ヨーロッパでユーロの現金流通が始まった。

平成一五年(二〇〇三年)

六月、統計事務所久万出張所開庁。国の行政機構改革で、過疎地の出張所は次第に閉鎖されてきた。久万にあった公共機関もほとんど引き上げられた。簡易裁判所(昭和六三年)、法務局(平成一〇年)、保健所(平成一〇年)、食糧事務所(平成一二年)に続いて統計事務所も閉じられた。県事務所も農業改良普及所も規模縮小された。

N T T、J Rバス急行便も姿を消した。そんな中、県林業試験場だけは充実されてきている。

八月、三坂トンネル起工式。郡民待望の三坂トンネル工事がやっと始まった。昭和六〇年、国道三三号線の整備を促進するため、愛媛・高知両県の沿線一五市町村で整備促進期成同盟会を設立した。昭和六一年から少しでも早く着工する願いで町議会議員、役場管理職による基金積立を始めた。平成一二年まで続けられた。基金は、関係諸機関への要望活動などに使われた。

平成六年、国道三三号線が地域高規格道路「高知松山自動車道」として指定された。平成八年、三坂道路の事業化認可。平成一〇年、三坂道路事業説明会開催。平成一一年、取付道路・橋梁着工。平成一二年、松山工事事務所主催の起工式典、同盟会主催の起工祝賀会開催。そして、平成一五年、第一トンネル着工の運びとなった。平成一九年度供用開始の予定で工事が進められている。

トラックに箱を乗せた形の木炭燃料の国鉄バスで、がたがた道を松山まで三時間以上かかっていた頃からみると、国道三三号線の整備状況は隔世の感であるが、一日も早い開通が期待される。



三坂トンネル

一二月、かみうけな合併協議会合併協定調印式。柳谷村、美川村、面河村と久万町の一町三村の合併が決まり、平成一六年八月一日に久万高原町が誕生することになった。平成一三年五月、松山地方局合併検討協議会設置・上浮穴部会構成。平成一四年二月、かみうけな任意合併協議会設立。同年六月、かみうけな合併協議会（法定）設立。二〇回に及ぶ合併協議会とそれに並行しての事務レベルの会合等を重ねて、鋭意準備が進められてきた。また、町民の理解と協力を得るため、合併説明会を各地で開催し、住民の意見にも耳を傾けた。町名は、公募した中から高原町が選ばれたが、反対意見が強く住民パワーで再審議となり、久万高原町に決定した。当初上浮穴は一つという考えで、郡内五町村の合併を目指したが、小田町が諸事情から参加しなかった。小田町は、紆余曲折のすえ五十崎・内子と三町で合併（平成一七年一月）することになった。新町名は、内子町である。

一二月、社会福祉協議会合併契約調印式。一市町村一社協という法の定めによって、四町村の合併に合わせて四社協も合併しなければならぬ。平成一五年六月、かみうけな社協合併協議会を設立し、協議と事務手続きを重ねてきた。平成一六年八月一日、社会福祉法人久万高原町社会福祉協議会が発足することになった。

この年、イラク戦争勃発（三月）。国連決議を経ないまま、アメリカ・イギリスが開戦した。短期の戦争で、ブッシュ大統領は戦争終結を宣言した（五月）。始めは、アメリカのフセイン政権打倒を歓迎していたイラク国民だったが、次第にアメリカの支配に対する不満が募り反米感情が抑えられなくなった。今では治安維持と復興に手を焼く状況であ

る。各地でのゲリラやテロで局地的な戦闘状態が続き、戦争終結後の犠牲者の方が多くなっている。平成一六年六月末、イラク暫定政府に主権が返還されたが前途多難の様相である。

新型肺炎（SARS）が猛威を振るい、死者は七〇〇人以上に達した。北朝鮮の核開発問題で六か国協議が行われた（八月）。

国内では、イラクで外交官二人が殺害された（二月）。日本人初めての犠牲者である。衆議院選挙（十一月）で民主党が躍進し、二大政党の時代に入った。長崎で中学一年生が幼稚園児を殺害するなど、凶悪犯罪の低年齢化や少年に関わる事件が目立った。

県内では、光センサー選果機不正入札が相次いで発覚するなどJJA絡みの不祥事が多かった。市町村合併で一部迷走のところもあるが、大枠がほぼ固まり、新しい新居浜市がスタートした。

平成一六年（二〇〇四年）

一月、公的個人認証サービス開始。IT化が進み、インターネットで行政機関に申告や申請が出来るようになった。このために起こるトラブルを防ぎ、プライバシーに関わる安全を守るため、電子証明書を発行するサービスを開始した。

三月、久万スピリッツクラブ誕生。町民の誰もが気軽にスポーツや文化活動に親しみ、楽しむことができるクラブ。会費制で、ボランティアの方々との協力を得て運営する。五月、活動開始。

五月、四九四・三三三元気塾発会式。よくしよう・さんさんげんきじゅくと読む。国道四九四号線、三三三号線が通る久万高原町が誕生するに当たって、町民の力を結集し、元気な町、住み良い町づくりに参加しよう

という趣旨で発足した会である。平岡新太郎氏らの呼びかけで各町村の有志が七〇人余り集まった。新町を動かす大きな力になることだろう。六月から早速、行動開始。美川・柳谷地域の踏査を実施した、続いて面河・久万地域の探査が予定されている。また、特産品づくりを目指して久万大豆の栽培に取り組んだグループもある。

五月、ライフショップ久万店閉店。店主が高齢になり、後継者がいないために閉店したということである。地域の台所生活を長年に渡って支えていた店の閉店は残念に思える。近くにコンビニが進出してきた影響もあるかも知れない。



Yショップ

Yショップ久万店（平成一三年一〇月開店）、コーナン久万店（平成一五年四月開店）、サークルK久万店（平成一五年一月開店）と大型チェーン店が進出して来た。以前に進出していたヤマサンが数年で撤退した例があるから、これらの店がどうなるか未知数であるが、現在、町内の商店街にかなり大きな影響を及ぼしているようである。

店主の高齢化と後継者が無いため、戸を閉めた商店、跡地が駐車場になった所も出てきた。これらの商店の消長についてまとめた記録が無いのが残念である。

鳥インフルエンザ、おれおれ詐欺、年金改革問題、大臣や国会議員の年金未納問題、自衛隊のイラク派遣、次々に起こる事件や事故で、ほんの数日前の出来事が忘れ去られる世相である。

北朝鮮問題、パレスチナの状況、そして、イラクでは日本人拉致・銃撃など外国人をねらった攻撃などと平成一六年も大混乱の年になる様相である。